

# lafont. PARIS

「カフェ・ド・ラフォン 25 号」 SILMO2015



## 1. 新作のテーマについて

2015 年シルモ春夏コレクションのテーマは「オリジナル・ナチュラル・ラフォン」。

新作は「テキスタイル」「クラシカル」「カラー」「ソフトネス」がキーワード。

マダム・ロランスの時代から受け継がれてきたラフォンの DNA の一つである「テキスタイル」を軸に、コレクションを展開しています。テキスタイルを多用することで、色彩の豊かさを表現しています。

また、新作ではソフトなシェイプのモデルが多く、柔らかな雰囲気表現しています。

ディスプレイにおいてもテキスタイルを重視し、リパティファブリックを用いた手作りのクッションを随所に配置しています。額縁に収められた絵は水彩画で描かれており、春夏らしい華やかな彩りを添えています。



## 2. GENIE (ジェニー) について



左： 上から  
col.001,2024,3065,3066,4040,5053,  
532,6044,619,7060,7061,8017

今回の新作に合わせて復刻された「GENIE」は、1981年に発表されたモデルです。

当時の眼鏡業界は、ブラウンやトータスシェルやブラックなど、落ち着いた色合いが主流でした。

そのことに退屈を感じた初代デザイナーであるロランスは、カラフルなフレームを作ろうと決心しました。

ラフォンのスターティングポイントとなったモデル、「GENIE」はこうして始まりました。

カラフルなフレームは、クリアの生地を手作業でインクに漬け込むことで染色する技法を用いています。

彼女の感性の導くままに、カラー展開はレッド・パープル・グリーン・ブルーと次々と増え、最終的には12サイズ・72色に及ぶ大ベストセラーになりました。

現在の眼鏡業界ではポストンシェイプがトレンドになっています。その流れを汲むと共に、ロランスの「GENIE」に再び光を当てることで新作のテーマの1つである「オリジナル」を表現しています。

## 3. 新作モデルについて

### SENTIMENT (サンティーモ)

智金具からテンプルにかけてエッチングされているデザインは、「トラデスカンティア」というツユクサ科の植物をモチーフにしています。

新作のテーマの一つである「ナチュラル」が、モチーフと丸みを帯びたシェイプから表現されています。



上： 左から col.3040,7036

下： col.7036





## SINGULIERE (サングリエル)

テンプレのエッチング模様は、「シダ植物」をモチーフにしています。

エッチング→エンブレイシング(彫り)→1色目カラーリング→2色目カラーリング→部分的に2色目を拭き取り  
という工程でテンプレの模様を作り出しています。



上 : col.2023

下 : 左から col.6040,7021,2023

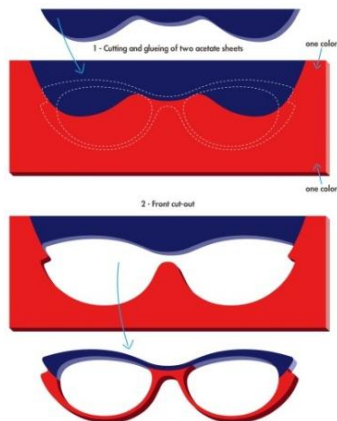


## SAVEUR (サヴァー)

IOFT2015のアイウェア・オブ・ザ・イヤーのレディース部門受賞モデル「RENDEZ-VOUS」の後継モデル。

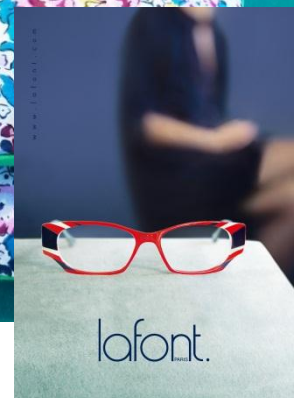
別々のアセテート生地を接着してセル板を作り、意外性のあるカラフルなフロント生地でテキスタイルを表現。

フロントシェイプは、「蓮(ロータス)」をモチーフとしています。



上 : 奥から col.6015,3038

右 : RENDEZ-VOUS col.462



## SAMBA (サンバ)

テンプル部分に付け外し可能なパーツが付属されています。  
モチーフはヘアバンド、ヘアクリップです。



上： col.3043 リボン部分はリバティファブリックが  
挟み込まれています

下： col.100S フロント部分にストーンの入ったカラー

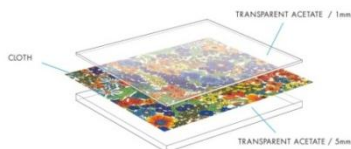


## SOHO (ソーホー)

新作のアイコンモデル。COL.3052 が POP に使われているカラーです。  
フロントとテンプルにリバティ社の生地を挟み込んで作られています。



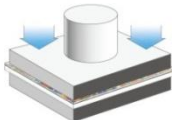
① CLOTH IS LAID BY HAND BETWEEN TWO PREGLUED TRANSPARENT ACETATE LAYERS



② THE PRESSING PROCESS : Acetate passes through two rollers to make the layers



③ HYDRAULIC PRESS : Compression of the acetate





## SCALA (スカラ)

ヨーロッパでは人気のバタフライシェイプ。エッチング部分は、ダリアの花びらがモチーフです。

こちらのモデルも2色塗装をして、部分的に拭き取るという技法を用いており、1時間に約3本しか作れません。



上から col.181,2020,3067,571

## NEW COLOR

新色のストライプ模様の生地 (STROMBOLI COL.5051,7054 等) は、タイシルクがモチーフです。

こちらにも「テキスタイル」というテーマが共通しています。



上：タイシルクモチーフの

アセテート生地を用いたモデル STROMBOLI

上から col.5051,6041,7054

#### 4. リバティファブリックについて



上：当時のリバティ社



左：イブニングドレス（1920-1925）

右：コート（1928）



リバティファブリックを挟んだ POP モデル

上：SOHO col.3052

下：SOURIRE col.3043



イギリス・ロンドンの「リバティ社」は、1875年にアーサー・ラセンビー・リバティ氏が設立しました。

リバティ氏は、ロンドンの万国博覧会で東洋の美術品に魅せられ、日本を含む東洋のファブリックや装飾品や美術品を扱い始めました。当時のリバティ氏のコレクションは、非常に魅力的であり、人々を夢中にさせました。

リバティ社のテキスタイル部門は、1920年代に急成長します。リバティ氏は、華やかな雰囲気具备了、美しいデザインのアールヌーボー風プリントを取り入れました。この細かく繊細で曲線的な花模様は、「リバティファブリック」として知られるようになります。

現在もリバティ社は、毎年70柄以上の新作を発表し、常に独創的で革新的なファブリックを発信し続けています。



ラフォンの新作コレクションにおいても、レトロで多色使いの柄をプリントしたリバティファブリックを多用しています

（一部、デニム生地やドット柄など、リバティ社以外のファブリックを用いたモデルもあります）。

ファブリックを用いたモデルは、全コレクションのアセテートの約10%になります。

前回のコレクションにおいて、ファブリックを挟み込む技法は、キッズとリエディションの一部にのみ使われていました。

今回は、ほぼ全てのシリーズで用いられています。

ラフォンでは、80年代～90年代初頭にかけて初代デザイナーであるロランスが使い始めました。

現在は、ロランスの息子であるトーマスが生地を選んでいます。ラフォンのDNAの一部であるテキスタイルは、こうして今も受け継がれています。



## 5. ドットモチーフについて

今回の ISSY & LA のテンブルや、SOHO の col.3063 にドットモチーフのファブリックが使われています。

ドットのモチーフは、ヨーロッパやアメリカでは「ポルカドット」と呼ばれています。「ポルカ」という言葉は、チェコ語で「ポーランドの女性」という意味です。

チェコの西部にあるボヘミア地方はポーランドと隣接しており、ボヘミア地方の文化・風俗と密接に関わりがありました。そのボヘミア地方の染物に水玉模様がよく使われ、これを「ポルカドット」と呼んだのが由来です。ポルカドットは、19世紀「ポルカ」と呼ばれるチェコのフォークダンスの人気と共に流行しました。

「ポルカ」の衣装にドットの柄が多く使われ、その影響でファッション業界でも人気のモチーフとなりました。ドットの中でも中ぐらいのサイズのものを特にポルカドットと呼び、フラメンコの衣装で用いられているドットモチーフもポルカドットと呼ばれるようになりました。

ラフォンでも 1979 年から採用されている、伝統的なモチーフです。



上：ポルカドットが  
テーマのペーパーバック

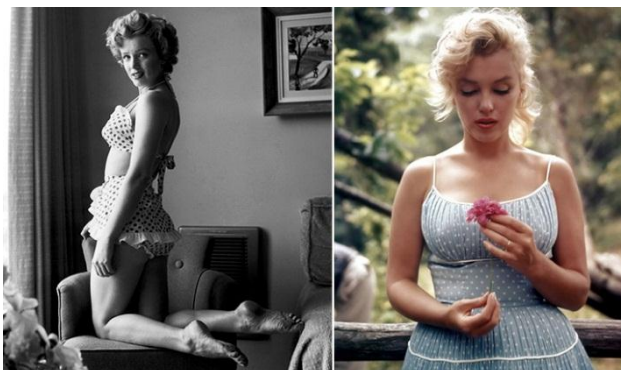


右：ポルカドットドレスを着た  
オードリー・ヘップバーン



ポルカドットモチーフのファブリックを挟んだモデル

上：SOHO col.3063, 下：SIMONE col.3063



左：ポルカドットのビキニを着たマリリン・モンロー

右：ポルカドットのサマードレスを着たマリリン・モンロー



上：ミニーマウスのポルカドットスカート



上：ポルカドットモチーフのファブリックを  
テンブルに挟んだイシエラモデル

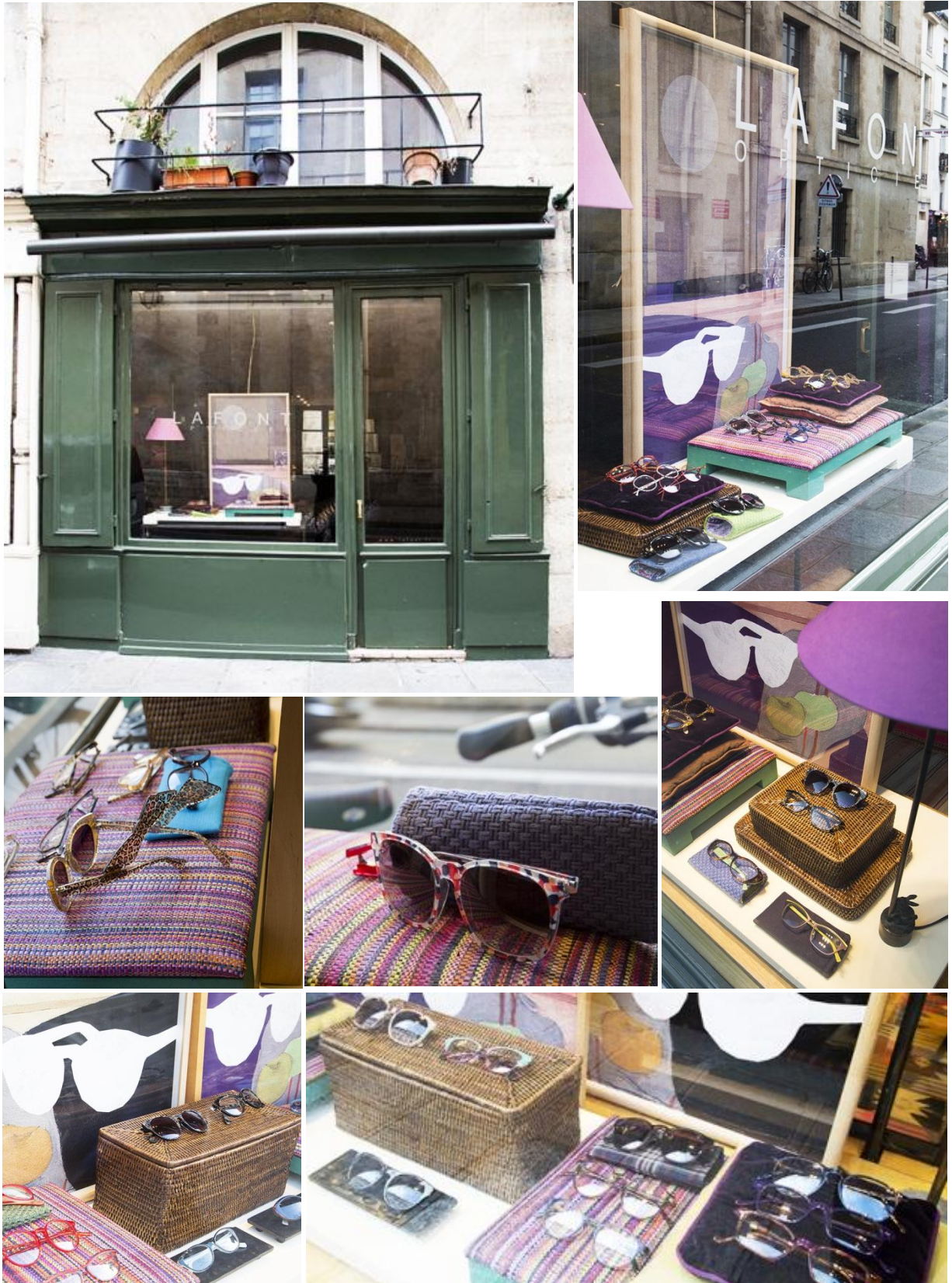
SOUDAIN col.1027



## 6. ラフォンブティックのディスプレイ

ラフォンブティックのディスプレイです（2016年1月）。

新作の SAMBA や SOHO が並んでいます。





クリスマスのディスプレイです（2015年12月）。  
額縁にはポストカードと同じイラストが使われています。

